

---

# 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

## センターだより第203号(通巻第270号)

---

2023年1月31日 発行  
山梨大学教育学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790  
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp  
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、変更しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

### ■ 「第40回 教育フォーラム」の報告 (11/15)

- 1 開催日 令和4年11月15日(火) 18:00~20:00
- 2 開催方法 対面とオンライン (Zoom) によるハイブリッド方式
- 3 開催場所 山梨大学甲府キャンパス J号館A会議室
- 4 テーマ 「子どもたち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて」
- 5 次第
  - (1) はじめのことば
  - (2) 講師・パネリストの紹介
  - (3) ご講演 鷹野 美香 先生 (山梨県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課 課長)  
「多様な学びの場における支援のあり方」
  - (4) パネリストによる発表  
【パネリスト】
    - 武田 幸子 先生 (南アルプス市立大明小学校 教諭)
    - 中島 範隆 先生 (山梨大学教職大学院、甲斐市立双葉中学校 教諭)
    - 佐野 青葉 先生 (山梨大学教職大学院、甲府昭和高等学校 教諭)
    - 菊池 恵 先生 (特別支援教育・児童生徒支援課 主査・指導主事)  
【コーディネータ】
    - 中込 司 (山梨大学教育学部附属教育実践総合センター)
  - (5) 意見交換
  - (6) まとめ・感想
  - (7) おわりの言葉

## 第40回 教育フォーラム

### 子どもたち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて ～多様な学びの場における支援のあり方～

令和4年11月15日午後6時から教育学部A会議室に於いて、第40回教育フォーラムを対面とZOOMによるオンラインのハイブリッドで開催しました。

近年、少子高齢化の一方で、特別支援教育への理解の広がり・障害の概念の変化や多様化など、特別支援教育をめぐる社会や環境の変化に伴い、特別支援教育を必要とする子どもたちの数は増加の一途をたどっています。こうした状況のもと、特別な配慮を必要とする子どもたちがその可能性を最大限に伸ばすと共に、自立と社会参加に必要な力を培うための適切な指導・支援の重要性が高まっています。

今回のフォーラムでは、こうした課題に校種を超え一元的に対応するために本年度から設置された特別支援教育・児童生徒支援課の鷹野美香課長を講師に迎え、一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向け、教育的ニーズの把握の重要性・合理的配慮を行う上で考慮すべきこと等、特別な支援が必要な児童・生徒への指導について、ご講演いただきました。



その後、各校種での実践について提案される事例などを参考にし、共生社会に向けた方向性について意見交換を行いました。

当日は、幼稚園1名、小学校19名、中学校5名、高等学校2名、支援学校2名、大学・教職大学院教員等19名、教育行政5名、一般7名の計60名の申し込みがあり、内12名は対面での参加でした。

#### <講演>

山梨県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課 鷹野課長様から、「多様な学びの場における支援のあり方」と題してのお話をいただきました。

県として本年度特別支援・教育児童生徒支援課を設置し、特別支援教育及びいじめ・不登校、ヤングケアラー対策等の児童生徒を取り巻く諸課題に一元的に対応し、切れ目のない支援を行うために各担当が連携を図り業務を推進するため組織を再編した。

特別支援教育の目指す共生社会とするため、多様性、社会的包容を視点として取り組んでいく必要がある。また、実際に共生社会に近づけていくためには、これまでの障害のある子どもが特別な場所で障害に合わせた教育を受けていた状況から、支援が必要な子どもたちがすべての場所でそれぞれのニーズに合わせて教育を受ける形に転換していくことが求められる。学校現場においては、特別支援教育がすべての教職員に標準装備されるようになることが求められる。



また、インクルーシブ教育システムを構築するためには、一人ひとりのニーズに合わせた合理的な配慮として、さまざまな対応が考えられる。私たちが進めることのできる合理的配慮の一つは、学校における最大の環境要因である教員が適切な対応をすることである。その点で本日のような各校種からの実践について考え、思いを共有することは大変意義のあることである。

多様な場での多様な支援を共有し、今私たちにできることを一つずつ、子どもたちと共に、山梨県のインクルーシブ教育を進めていきましょう。



### <各パネリストの発表>

小学校、中学校、高等学校、特別支援とそれぞれ異なる校種から、様々な取り組みが紹介された。

#### ○ 大明小学校 (武田幸子先生)

学校全体がチームとなって取り組む支援

大明小学校では、4月の職員会議での共通理解から特別支援学級を中心とした時間割の決定、また月に1回の情報共有と全職員がチームとなって支援学級を日頃から支援しているという体制が作られている。



また、管理職が学校経営方針の柱に特別支援の安定が学校の安定であるという考えのもと、普段から全校児童が大切にされる学校運営を行っている。

このような考えのもと教員を一人にしない、また保護者を孤立させず一緒に考えていこうという相談しやすい雰囲気を作っている。さらに日常の具体的なさまざまな手立てや工夫を行っている。例えば、ユニバーサルデザインの一つとして黒板周りをシンプルにすっきりとしたり、一時間の学習の見通しを持たせるため教材をボックスにわかりやすく整理したり、工夫した教材を通常学級にも貸し出したりして、広く活用を図っている。今年度プレイルームを新設し生き物も飼うようになり、癒しと交流の場になっている。

**！ 全職員がチームとなって**

- ・4月の職員会議での共通理解
- ・時間割の決め方
- ・月に一度の情報共有
- ・日常の会話から
- ・さいごは何といってもマンパワー

#### ○ 双葉中学校・教職大学院 (中島範隆先生)

「尋ねる」「選ぶ」「委ねる」から始める環境調整

～オーナーシップに焦点を当てて～

教室での実践を貫く理念として、子どもたちは未来の社会の形成者であり、教室は社会づくりを経験する(練習する)場である。

学校の当たり前をひとまず脇において、可能な限り生徒の「居心地の悪さ」「学びにくさ」に寄り添って考えようとしている。わからなければ生徒に聞くという立場で進めている。



## 教室実践 (学級経営・教科指導) **をつらぬく理念**

- キーワードは“オーナーシップ” (特に学級経営)
  - ・子どもたちは未来の社会の形成者。教室は社会づくりを経験する(練習する)場
- 「学校の当たり前」をひとまず脇に...
  - ・可能な限り、生徒の「居心地の悪さ」「学びにくさ」に寄り添って考える。わからなければ聞く。

授業における環境調整として、生徒が自分に合った方法や手段を選択できる余地を確保するようにするなどの取り組みを行っている。具体的には、説明を聞いてばかりではなく自分のペースで学習できるよう生徒が学習活動を自分でおこない、その時間は教室のどこで誰と学習してもよい。自分で聞きたいときに聞く相手もタイミングをも自分で決めることができる等である。

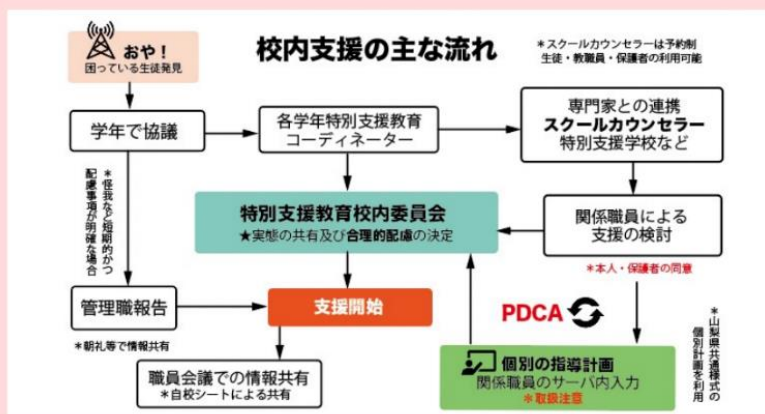
一人の教師が生徒の個別ニーズを全て把握することは困難である。そのために生徒自身が自分に合った学びの方法を選択できることで、個別のニーズに対応できる可能性が出てくる。そうすることが将来に向けて、生徒を学び手として自立させることにつながっていくだろう。

- 昭和高等学校 (佐野青葉先生)
  - 高等学校普通科における特別支援教育
  - ～特別支援教育コーディネーターの視点から～

障害のあるものとなないものが共に学ぶ仕組みの構築が必要であり、校内支援システムの構築が求められる。高等学校においては課程や学科が多様で情報共有が難しい、教職員の理解や意識に差があるなどいくつかの課題があるため、これから進めて行かなければならない点が多い。これらを解消するためには、まず特別支援校教育コーディネーターが校内において体制を整備し、教員間の調整を行っていく必要がある。



## 自校にあった校内支援システムの構築を目指して



本県においては 38 校に 75 名のコーディネーターが配置されているが、年間を見通した生徒の個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・保管・管理などを進める校内での体制が十分といえる状況ではない。今後も自校にあった校内支援システムの構築をめざして対応を進めていきたい。

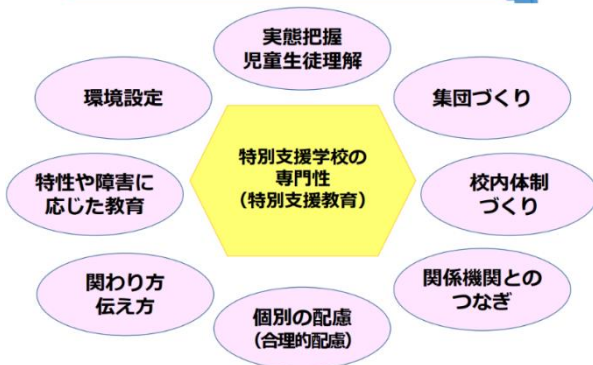
○ 山梨県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課 (菊池恵指導主事)  
特別支援学校の教育と特別支援教育の視点

山梨県内の特別支援学校では、それぞれの学校で対象となる障害者とその教育課程について、専門的に対応を進めている。それぞれの特別支援学校では、環境整備と環境調整等の障害に応じて、自立活動、人との関わり、生活力、自己理解等の様々な活動を進めている。

特別支援教育における支援体制として、ユニバーサルな視点からの環境調整、多様性と受容性を持った集団づくり、個別のニーズに応じた合理的配慮の3点を中心に進めていく必要がある。



特別支援学校のセンター的機能 



また、特別支援学校の専門性及び支援学校に配置されている外部専門家の専門性による特別支援学校のセンター的機能を発揮し、県内の小中学校の支援体制を支える仕組みが作られている。

これらのさまざまな支援の提供を通して、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援し、将来に向けて児童生徒の心を育み、その子らしく生きて行く力を育てることを目指していきたい。

<意見交換>

意見交換では、「校種間の連携、職員同士の連携」や「合理的配慮と体制整備」「環境要因としての教師の関わり」などについて活発に議論された。

限られた時間の中で、それぞれの校種や学校の状況について話し合われたため、もう少し時間をかけて深めていけるとよかった。また、ハイブリッドで実施したことを活かして、会場やオンラインでの参加者から意見をいただくことで、より深められたらと思う。また、意見交換の最後に鷹野課長にまとめをしていただいた。

<参加者のアンケートより (抜粋) >

- 特別支援教育を標準装備するという概念、大変重要だと感じた。また、校種が違う先生方のそれぞれの立場からの提案・発表に大変感銘を受けた。明日からの子供達との関わりの中に生かしていきたい。
- 小学校から高校まで、幅広い校種ですが、困り感を感じている子どもも先生もいるはず。その意味で各校種の取組がうかがえて参考になりました。
- フロアからの質問も受けただけだと、さらに有難かったかなと思いました。しかし、学びのあるフォーラムでした。ありがとうございました。
- コロナ禍にあって、運営等ありがとうございました。お疲れ様でした。このような機会を設けていただきありがとうございました。貴重な学びとなりました。

- 事務局の皆様、パネリスト、コーディネーターの先生方、お疲れ様でした。とても素晴らしいフォーラムだったと思います。ありがとうございました。
- パネリストの先生方、貴重なお話をありがとうございました。今日のお話を明日からの業務の糧としたいと思います。
- お忙しいなか教育フォーラムの開催ありがとうございました。勤務校が遠いので zoom での開催もありがたかったです。
- 遅い時間の開催でお手数をおかけしました。仕事を終えて気軽に参加出来ました。
- 初めて参加させていただきました。ありがとうございました。本日発表された先生方の発表資料が欲しかったです。
- 今後、教育をしていく上で大変参考になる内容でした。中島先生の「みんな誰かの大切な人」という言葉が心にしみました。このような考え方をもっている先生と出会える子ども達はきっと幸せなのだと思います。ありがとうございました。
- 「特別支援教育は、一人の子のためではなく、全ての子のためのものである。」という考え方に共感できた。一人の子も置いていけない教育という気持ちをみんなで共有できたら素晴らしいと思えた。
- 御参加されたパネリストの方々のお話がとても勉強になりました。現場での様子、行政としての関わりと様々な面から山梨県の特別支援教育について交流できたことは、大きな成果だったと感じます。
- 講演の中でも話題になりましたが、支援が必要な生徒が本当に増えているというのを数字だけでなく学校現場にいると肌で感じます。様々や校種や指導主事の先生のお話を聞いて考え方の幅が広がりました。どの生徒も大切にできる教員を目指していけるようになりたいと改めて思いました。
- 特別支援教育のニーズがますます高まっていく状況に合わせて、われわれもスキルアップしていく必要性を強く感じました。「影響を与える最大の要因である教師」による「特別支援教育が成り立つ土台づくり」に対する理解を、深めていきたいと思いました。お忙しい中ありがとうございました。
- すべての場で、子どもたちが必要としている支援を進めていくという特別支援教育の考え方を再確認でき、大変有意義でした。具体的実践も学ぶことができ、明日からの教育活動に役立てたいです。
- 鷹野先生の全ての生徒に全ての場所でそれぞれのニーズに合わせて、という理念をこれから皆で共有できたらいいなと思います。また、教職大学院から参加されていた中島先生の素晴らしい実践、佐野先生の高校現場での苦しい状況も、こうした理念のもとに、一層の充実が図られると感じ、今後の支援教育への希望につながりました。ありがとうございました。
- 特別支援教育は学校経営の中心に据えるべきだと常々考えている。その意を強くした。
- それぞれの場での支援を知れてよかったです。様々な学校で広がっていったら良いなと感じました。特別支援ということではなく、一緒に過ごしている人としてみてもらったり、関わり合えたり出来たらいいなと感じました。
- 自分以外にも日々取り組みを工夫されている先生がいらっしゃることも勇気をもらった気がしました。特別なことをするのではなく、合理的配慮を行い子ども達が笑顔で過ごすことのできる学校づくりをこれからも心がけていきたいです。
- 小・中・高・特支すべての校種を代表する先生たちのお話を聞き、それぞれの校種の状況と、互いの思いや考えを知ることができてよかったです。今回の発表を聞いた先生方が、さらに良い環境に向けてそれぞれ考え、行動することが、県内の特別支援教育の向上につながると感じました。

- 鷹野先生の講話、県内の全教職員にスタンダードとして聞いていただきたいお話です。特別支援教育について当事者意識を持ってない教員がまだまだ多いと感じています。また、パネリストの皆さんには大変素晴らしい実践の紹介をありがとうございました。ぜひ、県内に広めてください。
- 今回のお話をうかがいながら、子どもにとっても教師にとっても一人一人が大切にされること、「子どもに手がかかる」と上手くいかなさを悩むのではなく、前向きな姿勢で「きちんと手をかけていく」意識を持つことが当たり前であることを改めて実感しました。教育の現場、学びに向かう場では、子どもも教師も含めて、決して誰も一人きりにすることはせず、それぞれの良さや可能性を広げる方向に向かっていきたい！と思いました。貴重な機会をありがとうございました。
- 鷹野先生のお話はいつも分かりやすいです。今日も勇気をもらえました。中学校での実践、救われる子どもたちがたくさんいたろうと思いました
- 定時制に勤務しています。中学校からの情報は少なく、問い合わせをすれば情報を提供して下さると思いましたが、その生徒の状況がわかる先生がいなくてと言われてしまうこともあり、結局一からのスタートとなっています。
- 特別支援教育がテーマでしたが、すべての人の教育や人生の捉え方に通じるところがある内容で、色々と考えさせられました。大学の教室で直接応用することは難しくても、小・中・高の教員を目指す学生たちと関わる上で、大事なことを沢山教えていただきました。ありがとうございました。
- 特別支援教育だけでなく、全ての子どもたちが等しく学習や活動に取り組めるような合理的な配慮がなされなければならぬのだと改めて感じました。
- ユニバーサルデザインの視点に立った教育の必要性と目の前の子供を受容し共に育つ姿勢を持ち続けることの大切さについて考えさせられました。貴重なお話ありがとうございました。
- これまで特別支援教育について学ぶ機会がなかったので現状や様々な実践を知ることができました。自分自身の関わりに配慮が足りなかったことを振り返ることができました。
- 鷹野先生のお話、とてもよく分かりました。大事な内容であり、県内全部の教職員の先生方に聞いてほしいと思いました。「標準装備」のお話、全くその通りだと痛感しました。パネリストの先生方のお話、小中の実践発表は、実際の現場のお話でとても分かり易かったです。具体的な写真等があり、どのようにやっているのかも分かりました。高校はこれから土台作りをしていくのだなということが良く分かりました。こういう場で情報を共有し、高校のお話も聞けたこと、とてもありがたいです。もっともっと多くの先生方に参加してもらいたいと思いました。zoom参加ができるので、今後はそれが可能になると思います。今回、音声もとてもクリアで会場の映像もよく分かり、とても良いフォーラムだったと思います。県教委の先生方、事務局の先生方、素晴らしいフォーラムをありがとうございました。
- 多様な子供たちがいる教育現場において、学校最大の環境要因が「教師」であるということに大変納得しました。各校種の先生方のお話を伺いながら、「特別支援ができない。」のではなく、柔軟に考えること、発想を転換すればできることがたくさんある・・・と日頃考えていたことを後押ししていただいたように感じました。「特別支援教育の視点」を持って、それぞれの先生方のやり方で、対応できたらよいと思いました。菊池先生からの質問の中で「周知するには」とあったのですが、現場では「この方法を知っていれば、良い方に向いたのに。」と知らないことでマイナスな方向に進んでしまう事例も多くあります。汎用性の高い支援方法をどのようにしたら広めることができるのか課題であると考えています。
- 鷹野課長のお話は、たいへん分かりやすかったです。全県の状況やめざしていること、具体的な取組を知る

ことができました。4名のパネリストの先生方のお話も、とても興味深く聞かせて頂きました。小学校に勤務しているのですが、高等学校の現状については分からないことが多くありました。担任している特別支援学級の児童達も、高等学校進学や就職をしていくので、今回お話が聞けてよかったです。今後、高等学校で全ての生徒が学びやすいような環境づくりや支援体制の充実が整っていくことを期待します。

- とても充実した時間を過ごすことができました。様々な立場からの提案、共生社会でめざすこと、今できること等、改めて考えることができました。私もいつも子どもたちに、大切な一人なんだよ、と言い続けていました。間違っていないなと思うこともできました。貴重な機会をありがとうございました。
- 初めて参加しましたが、校種それぞれの実践や内容を知ることができよかったです。多様性に対応できるよう、今後も特支の知識、理解を深めていければと思います。
- 発達障害をもつ児童生徒が増えている中で、教師の認識、知識が追い付いていない状況があります。本県の特別支援教育の現状とともに各校種における取組を伺えたことはよかったです。ただ、中学校の中島先生の取組みも素晴らしかったのですが、小高同じように中学校の特支コーディネーターの取組を伺いたかった気がしました。
- 校種間の連携やリソースとしての人など、各校種の現状と課題について一部ではありますが垣間見ることができたと思います。意見交換で土台作りという話が出ましたが、講演の中にもあったように、研修や知識を詰め込むより、実際に自分が関わりながらたくさん考えたり悩んだりする経験をするのが一番の意識改革になるのではないかと思います（なので特別支援学校教員が普通小中高へ異動した際の人事交流時の配置もポイントになると思います）。これまで行われていた一斉授業の形や学校文化を変えていくことは容易なことではないと思いますが、少しずつでも社会も含め多様な学びの在り方に寛容になっていくと良いなと感じました。
- 他校種の特別支援教育の現状や取組みを垣間見る事ができて良かったです。学校の現状はそれぞれ違いますが、「特別支援教育を標準装備に」を推し進めるためにはどうすればいいかと言うところを更に切り込んだ提案があれば良かったと思います。特別支援教育をどのように推進していくか県の見解や現場での指針になるものが示される事を期待していたので、特別支援教育に関わっている人間であればおおよそ知っている内容が多かったことが残念でした。特支にあまり詳しくない方に知って欲しい内容でしたので、そういう方には概要が分かり、良かったかもしれません。せっかく実地で参加したので、参加者からの質疑応答の時間が欲しかったです。
- 通常の学級の中に、学年相当の学習についていけない生徒が数多く存在しています。そのうち希望した生徒は「発達障害等の疑い」という分類で通級指導を受けていますが、特別な手だてを受けること無く埋もれている生徒もとても多いように感じます。そのような生徒達は、勉強が分からないことで自己肯定感を下げ、不適応行動や不登校につながるケースもあるようです。何より、学校生活や学習に対する意欲や期待感をもてず、自信や気力ももてない様子に見えます。また、このような生徒達が選択できる進路先は限られ、将来に対する希望ももちにくいと思います。努力が足りないと思われがちな生徒達ですが、これまでに積み重なった学力不足が目の前の学習理解を阻んでいるところもあります。認知的にもグレーゾーンに属し、発達障害の特性を帯びている場合は、自力で学習することは困難です。
- 今日のフォーラムの中で、『全ての子どものニーズや困難さに応じた支援』という言葉が何度か話されたと思いますが、教室の現状を多くの教師が共有し、個別最適化やその子に応じた分かる・出来るを授業の中で実現できるとよいと思います。（中島先生の実践は、それを体現しているように感じました）また、各々の



教師が意識を変えていくことと合わせて、等質グループによる授業や全ての学級のT、T活用など、指導体制の工夫なども進めていければよいのではないのでしょうか？勉強が難しくて分からない子が下を向いて座っているのではなく、分からないことを堂々と質問できるような環境作りが大切だと思います。子ども達は、学校に勉強をしに来ています。彼等には、分かって帰る権利があると思います。

- 先生方のお話が、特別支援教育を考える上でとても刺激になりました。どんな子ども意欲や達成感のもてる学習が、同じ場でできるよう、探求していかなければならないと感じました。
- 鷹野課長の講演が、支援教育の現状と課題を明確にわかりやすいお話で大変参考になりました。ありがとうございました。
- 大変有意義な時間を過ごすことができました。通常学級にも特別な支援を必要とする子供たちが多く在籍している中で、課題となることを一つずつでも突破することができたら、自分の力になるということを感じ、これからも子供たちと関わって行こうと思いました。ありがとうございました。
- 初めて参加しましたが、とても有意義な時間でした。また、次回も参加させて頂きたいと思いました。関係の先生方、お疲れ様でした。ありがとうございました。
- 鷹野課長さまをはじめ、パネリストの先生方の語りが優しく、とても温かい雰囲気にもまれたフォーラムでした。子どもたちの心に寄り添った実践、優れた指導力を共有させていただきました。
- 双葉中 中島先生の取り組みはすごいなと思いました。中学校では規律や規則がグッと強くなる印象があります。その中でも、寝転ぶところを作ったりすることは面白いなと感じました。授業スタイルも全てが同じ形ややり方ではなく、中島先生のような形もあることで、子ども達の学び方の選択肢が広がる一つの方法としていいのではないかと思います。色々と考えさせられる機会となりました。ありがとうございました。
- もっと大勢の先生方が参加できるとよいと思いました。関係者の皆様、企画運営等をありがとうございました。
- 良い研修の場をありがとうございました。
- 特別支援教育という言葉に違和感を感じています、現状の現場では様々な生徒が混在し障害を持っている生徒への対応が特別だとは思いません。特別支援教育に必要とされる教育術を全ての子ども達に当たり前実践しなければならぬ時代だと思います。
- フロアやチャットの質問などを拾っていただけると、さらに深まると感じました。ただ、パネラーの提案も切り口が全く違ったので、もう少し具体的なテーマで深掘りするのもよいと思いました。
- 質問 zoom で寄せられた御意見への返答を（個人に関わらない内容であれば）ぜひ配布していただきたいです。よろしくお願いいたします。

(質問)

- 大明小の取り組み写真の中で、上履きを脱いでいる子の椅子に何かついてたかと思います。あれは何で、どういう効果を狙ったものだったのでしょうか。

(回答)

A: 「ふみおくん」という感覚刺激のための教具です。椅子の脚に取り付けて使います。

足で踏むことによって感覚欲求を満たし、落ち着きや集中力を高める目的で使います。ゴムとびのゴムなどでも代用できます。